

第5次八幡市総合計画（中間案）
パブリックコメントの要旨及び計画への反映について

(※)計画への反映について
◎計画へ反映するもの
○既に意見の趣旨が記載されているもの
△今後の参考とさせていただきます

No.	意見要旨	計画への反映(※)	考え方
1	<p>「歩きやすい、歩いて楽しい道づくり」に「路上喫煙の禁止」を加えてほしい。</p> <p>現行の「八幡市美しいまちづくりに関する条例」では、吸殻入れを携帯していれば自由に喫煙可能となっていて、これでは「歩きやすい、歩いて楽しい道づくり」は実現できないのではないか。</p>	○	<p>「路上喫煙の禁止」については、「基本計画」第3章第1節③「出かけたくなる都市環境の整備」において「飲食店や事業所等も含めた受動喫煙対策の充実化を促進します」と記載しており、この中に路上喫煙の防止も含まれていることから、計画の中に一定反映されているものと考えています。</p> <p>なお、「八幡市美しいまちづくりに関する条例」では、環境美化の一環としてたばこのポイ捨てを禁止していますが、ご指摘のとおり、受動喫煙等の問題もあるため、今後の検討課題といたします。</p>
2	<p>八幡市に限らず日本全体で高齢化・少子化・人口減少が進むのは20年前からわかっていたことであり、それを踏まえて今後を考えるなら「無駄をなくす」「収入を増やす」の二つしか方法はない。</p> <p>支出を減らすには、「無駄な事業を減らす」というよりも「最低限必要なもの以外は絶対にやらない」というくらいの考え方が必要である。</p> <p>広報紙に載っている市主催の催しは本当にすべて必要か、市会議員の数は現状のままで良いのかといったことなど、市自らが痛みを伴うことを行わない限り無駄をなくすことは不可能である。これらのことが本当にできているのかを考える必要があるのではないか。</p>	○	<p>本市では、少子高齢化・人口減少社会の到来等に伴う義務的経費の増加と税収入の減少が同時進行しており、財政の硬直化が進んでいます。</p> <p>こうした状況を踏まえ、平成29年12月に「中期財政見通し」を策定し、持続可能な行財政運営を行うための指標を定め、行財政改革の取組を一層推進することで、足腰の強い財政構造の確立に取り組んでいるところです。今後の健全化策の方向性として、まずは内部管理経費を中心とした歳出の抑制に努め、自主財源の確保や、地方債削減による公債費負担の抑制等を行っていくことで、引き続き安定した行政サービスを維持していくことが可能になると考えています。</p> <p>そのため、「基本計画」の第6章第4節①「健全で持続可能な財政運営」において、「持続可能な財政運営を行うため、中期財政見通しを踏まえた行財政改革を推進します」と記載しており、ご意見の趣旨については、計画の中に一定反映されているものと考えています。</p> <p>なお、平成30年度には、次期行財政改革実施計画を策定する予定としており、策定にあたっては、いただいたご意見を参考とさせていただきます。</p>
3	<p>収入を増やすためには、人口を増やすか、産業を増やすかしか方法はないが、人口を増やすには魅力ある市にする必要があり時間がかかることから、先に産業を伸ばす必要がある。</p> <p>八幡京田辺JCT・ICに大型のサービスエリアをつくることはできないか。新名神高速道路や第二京阪道路にはサービスエリアがなく、八幡市に大型で一般道からも入場できる施設があれば、大きなビジネスチャンスになったのではないかと。</p> <p>京阪電鉄の八幡市駅や橋本駅周辺は産業が停滞している。橋本駅周辺で開店したスーパーだけでは近隣から人を呼ぶには弱く、観光客を呼び込めるような開発が必要ではないか。伏見稲荷大社が近年外国人観光客の呼び込みで成功しており、同じような呼び込みが出来ないか検討の余地はあると思う。八幡市の強みは、未開発の観光資源がまだまだ豊富にあるということである。いかに持つ強みをいかすかを考えるのが今回の計画であると思う。</p>	◎	<p>ご指摘のとおり、収入増加策として産業の活性化は必要であると認識しており、「基本計画」第5章第2節①「企業の進出可能な土地の確保」において「税源涵養（かんよう）に資する事業用地の創出を進めます」と記載しております。</p> <p>八幡京田辺JCT・IC周辺のサービスエリアにつきましては、設置主体がNEXCOであり市として設置を進める記載は困難ですが、同周辺では、平成28年度に都市計画の見直しを行ったことにより、現在土地区画整理事業の施行に向けた準備が進められています。「基本計画」第5章第2節①においても、「八幡京田辺JCT・IC周辺及び八幡東IC周辺の土地利用を想定した都市計画変更等を行い、競争力ある工業・商業基盤の整備を進めます」と記載しており、その際には、企業誘致に向けた取組を進めていきます。</p> <p>京阪八幡市駅周辺の観光誘客につきましては、「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」を踏まえ、交流拠点としての整備を進めていくこととして計画にも記載をしております。</p> <p>また、ご指摘のとおり、八幡市の強みは石清水八幡宮を中心に発展してきた歴史の深さにあり、由緒ある社寺や、町中に点在する石碑など、歴史資源は豊富にあるといえます。現在、数ある社寺等も観光客に公開しているところは一部であり、開発の余地はあると考えられます。そのため、第4章第2節②「自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進」において「石清水八幡宮を中心に社寺等のネットワークの形成を図り、新たな観光資源の掘り起こしを進めます」と記載を追加しました。</p>

No.	意見要旨	計画への反映 ^(※)	考え方
4	<p>八幡市駅周辺を都市機能誘導エリアとして位置づけ、平成29年度に策定した「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」に基づき、PR、再整備等を進めるとの記載があった。しかし、具体的な駅前開発の進捗に関するKPIはなにも設定されておらず、実現可能性について疑問を感じる。自身も20年以上八幡市に在住しているが、一向に街が進化しているような実感がなく、残念に思っている。</p> <p>本計画において、観光まちづくりを推進し、その拠点を石清水八幡宮や八幡市駅前と位置付け、事業を進めるのであれば、「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」の事業費ベースの進捗率や、駅前の飲食店、土産物屋の軒数等の具体的なKPIの設定をするべきではないか。</p>	△	<p>「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」は、京阪八幡市駅前周辺を含めた観光まちづくりの目指すべき姿をコンセプトとしてまとめ、市民の共感と積極的な参加を促す機運を創っていかうとするために、取組の方向性を示したものです。</p> <p>そのため、構想で示した方向性の具体化については、今後設定する総合計画の実施計画の中で検討していくものと考えており、本計画上でのKPI（業績評価指標）の設定は困難と考えますが、いただいたご意見につきましては、実施計画の策定において参考とさせていただきます。</p>
5	<p>子どもたちが社会を担う頃には、AIをはじめとするテクノロジーの革新により就労環境が激変し、今ある仕事の50%がコンピュータに置き換わると言われている。コンピューティング等のICT知識の有無は、プログラマーやエンジニアになるかならないを問わず、現在既に、就職において、また、就職に依存しない働き方において大きなアドバンテージとなっており、今後ますますその傾向が大きくなる。政府でも2020年から小学校でのプログラミング教育を必修化することとされており、次のことを提案する。</p> <p>①保育施設から中学校まで一貫したカリキュラムによるプログラミングをはじめとするICT教科の導入。</p> <p>②学校教育で興味関心を示した子どもたちが、さらに知識やスキルを身につけるための機会の提供（例：民間事業者と連携した、学童施設や集会所等でのプログラミング教育の提供）。</p> <p>これは八幡市のブランド戦略としても注目を得やすく、「八幡市はプログラミング教育が進んでいる」というイメージができれば、とりわけ子育て世帯への訴求力が高く、転入の促進、転居数の低減にもつながる可能性がある。</p> <p>また、この取組で培ったノウハウが八幡市としてのバリューとなり、他の自治体より一歩先んじることが可能となるのではないか。</p>	△	<p>市では、社会のニーズに応じた小・中学校教育を推進する中で、ICT教育につきましても、全校でのコンピュータ教室整備や各教科でのICT機器を活用した授業の展開を図っています。また、中学校では、小学校での学習内容を発展させた内容に取り組むなど、小・中学校で一貫した教育カリキュラムを導入しています。</p> <p>ご提案の内容については、個別具体的な事業内容となりますので、本計画への記載にはなじまないと考えますが、総合計画の実施計画の策定にあたり、今後近隣の状況を踏まえ研究していきます。</p>